

2022年3月期第2四半期 決算説明資料

2021年11月5日



株式会社ダイセル

目次

1. 決算サマリー	P. 3
2. 外部環境	P. 4
3. 2022年3月期 第2四半期決算	P. 5
4. 2022年3月期 通期業績予想	P. 11
5. 株主還元	P. 15
6. 中期戦略の実現に向けて	P. 16
7. 参考資料	P. 20

決算サマリー

◇ 2022年3月期第2四半期業績

- **売上高2,248億円、営業利益273億円**と計画（2021年8月3日公表）を上回った
- セイフティが自動車減産の影響を受けたものの、エンジニアリングプラスチック、マテリアル、メディカル・ヘルスケアでは販売数量の増加や製品市況の上昇などにより計画を上回る収益を達成

◇ 2022年3月期通期業績予想

- **売上高4,480億円、営業利益380億円**に計画を上方修正
- 足元の業績動向、為替レート、製品および原料市況を踏まえて通期業績予想を見直し
- 市場環境を考慮し、酢酸原料（一酸化炭素）プラントおよび化粧品原料（1,3-BG）プラントの商業運転開始時期を見直し
- ROICのさらなる向上のための、採算低下事業の積極的な資産圧縮、政策保有株式の売却などにより発生が見込まれる特別損益を織り込み

◇ 株主還元

- 50億円、600万株の自己株式取得を決定（取得期間：2021年11月～2022年3月）

主要市場別動向

市場	主な事業セグメント	2022年3月期上期の状況	下期の見通し
自動車	セイフティ マテリアル エンジニアリング プラスチック	半導体不足、コロナ禍の影響により上期の自動車生産台数は計画を下回った	自動車生産台数は3Qまで半導体不足などの影響を受け、4Qからの回復を見込む
半導体・ 電子デバイス	スマート マテリアル エンジニアリング プラスチック	半導体市場は旺盛な需要を背景に成長 液晶パネルなど電子デバイスの需要も増加。5G普及による基地局新設、データセンター新設需要なども増加	液晶パネル市場は巣ごもり需要一巡により調整が入る見通し その他の電子デバイス、半導体は引き続き高い水準の需要が継続する見通し
コスメ・ ヘルスケア	メディカル・ ヘルスケア	コスメの国内市場は低調に推移。一方、コロナ禍から早期に回復した中国市場の需要は増加 健康食品の国内市場はコロナ禍での健康意識の高まりにより堅調に推移	コスメの国内市場は引き続き低調に推移し、中国市場は成長する見通し 健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し

2022年3月期 第2四半期業績

(単位：億円)

	2021/3 2Q実績	2022/3 前回予想(※)	2022/3 2Q実績	対前年同期		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,753	2,220	2,248	+495	+28.2%	+28	+1.3%
営業利益	91	230	273	+182	+199.3%	+43	+18.5%
経常利益	102	240	298	+197	+193.5%	+58	+24.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	33	160	220	+188	+573.6%	+60	+37.8%
為替レート USD/JPY	107	107	110				

※ 2021年8月3日に公表した業績予想です。

2022年3月期 第2四半期業績

<対前年同期>

- コロナ禍の影響を大きく受けた前年同期と比較して幅広い産業で需要が回復し、セイフティ、エンジニアリングプラスチックを中心に販売数量が増加。エンジニアリングプラスチックは21年7月に実施したCOC増産も寄与
- 販売数量増加に加え、コロナ禍による世界的なコンテナ不足や燃料費上昇により販売直接費が増加するも、原燃料価格上昇に伴う販売価格是正、事業構造改革の推進が増益に貢献
- 20年10月に実施したポリプラスチック完全子会社化の影響で親会社株主に帰属する四半期純利益が増加

<対前回予想>

- 自動車減産の影響を受けてセイフティの販売数量が計画を下回るも、メディカル・ヘルスケアは販売数量が計画を上回る
- 酢酸市況が計画を上回る水準で推移したことがマテリアルの収益を押し上げ
- エンジニアリングプラスチックはPOM、PBTを中心に原料価格上昇に伴う販売価格是正を強力に推進し、収益が計画を上回る

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q予想	2022/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	78	95	96	+19	+23.8%	+1	+1.4%
スマート	103	155	154	+51	+49.7%	△1	△0.4%
セイフティ	272	350	319	+47	+17.3%	△31	△8.9%
マテリアル	493	555	580	+88	+17.8%	+25	+4.6%
エンジニアリング プラスチック	747	1,010	1,044	+297	+39.8%	+34	+3.4%
その他事業	61	55	54	△7	△11.5%	△1	△1.8%
合計	1,753	2,220	2,248	+495	+28.2%	+28	+1.3%

営業利益	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q予想	2022/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	8	16	19	+11	+132.4%	+3	+18.5%
スマート	10	35	34	+24	+228.4%	△1	△2.8%
セイフティ	△17	30	24	+41	-	△6	△20.1%
マテリアル	75	105	116	+42	+55.6%	+11	+10.9%
エンジニアリング プラスチック	82	125	151	+69	+83.6%	+26	+20.9%
その他事業	9	8	8	△2	△19.2%	△0	△5.5%
全社共通	△77	△89	△79	△2	△2.8%	+10	+10.7%
合計	91	230	273	+182	+199.3%	+43	+18.5%

セグメント別 売上高・営業利益（対前年同期 増減・要因分析）

（単位：億円）

売上高	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	78	96	+19	+23.8%	+19	△ 0	+2
スマート	103	154	+51	+49.7%	+43	+8	+0
セイフティ	272	319	+47	+17.3%	+33	+14	+6
マテリアル	493	580	+88	+17.8%	+9	+79	+9
エンジニアリング プラスチック	747	1,044	+297	+39.8%	+194	+103	+16
その他事業	61	54	△ 7	△11.5%	△ 7	-	-
合 計	1,753	2,248	+495	+28.2%	+291	+204	+33

営業利益	2021/3 2Q実績	2022/3 2Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
メディカル・ヘルスケア	8	19	+11	+132.4%	+14	△ 4	+1	+0
スマート	10	34	+24	+228.4%	+23	+2	△ 0	△ 1
セイフティ	△ 17	24	+41	-	+32	+7	+1	+2
マテリアル	75	116	+42	+55.6%	+7	+28	+5	+6
エンジニアリング プラスチック	82	151	+69	+83.6%	+85	+20	+6	△ 36
その他事業	9	8	△ 2	△19.2%	△ 2	-	-	-
全社共通	△ 77	△ 79	△ 2	△2.8%	-	-	-	△ 2
合 計	91	273	+182	+199.3%	+160	+54	+12	△ 32

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2021年 3月末	2021年 9月末	増減
流動資産		3,125	3,233	+108
	現預金及び有価証券	915	919	+4
	受取手形及び売掛金	932	874	△ 58
	棚卸資産	1,087	1,235	+149
	その他	192	205	+14
固定資産		3,279	3,507	+228
	有形固定資産	2,197	2,234	+36
	無形固定資産	106	115	+9
	投資その他資産	975	1,158	+183
資産合計		6,404	6,740	+336
負債		3,954	3,997	+43
	有利子負債	2,709	2,698	△ 11
	その他	1,244	1,299	+54
純資産		2,450	2,743	+293
負債純資産 合計		6,404	6,740	+336

資産合計は対前期末336億円増加

- エンジニアリングプラスチックなど、コロナ禍からの需要回復対応で減少した在庫の積み増しを実施したことに加え、原燃料価格上昇の影響を受けたことで棚卸資産が増加
- 自動車エアバッグ用インフレータのインド拠点、エンジニアリングプラスチック（COC）増強などの設備投資
- 政策保有株式の時価の上昇

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

		2021/3 2Q	2022/3 2Q	増減
	営業キャッシュ・フロー	219	284	+66
	投資キャッシュ・フロー	△ 181	△ 213	△ 32
	フリーキャッシュフロー	37	71	+34
	財務キャッシュ・フロー	△ 43	△ 75	△ 32
	その他	2	5	+3
	現金及び現金同等物の増減額	△ 4	1	+5
	新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	-	1	+1
	現金及び現金同等物の当期末残高	802	909	+107

- フリーキャッシュフローは主に利益の増加により、対前年同期で34億円増加
- フリーキャッシュフローを株主還元、借入金返済に充当し、現預金残高は前期末水準を維持。引き続き、急激な事業環境変化に備えた財務基盤を確保。

2022年3月期 通期業績予想の修正

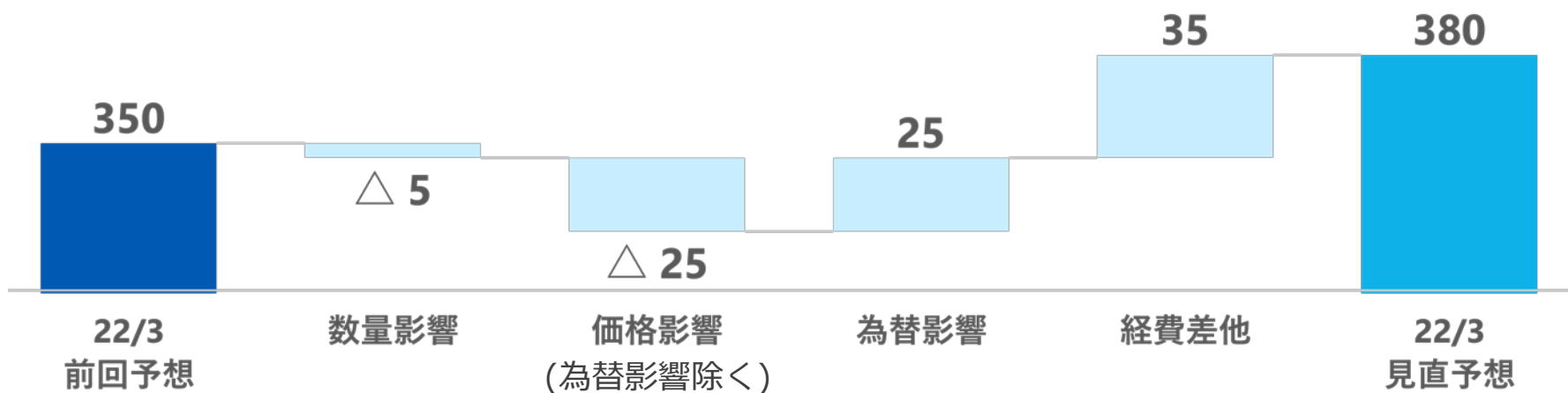
(単位：億円)

	2021/3 実績	2022/3 前回予想(※)	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	3,936	4,350	4,480	+544	+13.8%	+130	+3.0%
営業利益	317	350	380	+63	+19.8%	+30	+8.6%
経常利益	347	370	420	+73	+21.1%	+50	+13.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	197	240	240	+43	+21.7%	-	-
為替レート USD/JPY	106	106	110				
ROIC	4.1%	4.4%	4.8%				
EBITDA	586	677	662				

※ 2021年8月3日に公表した業績予想です。

2022年3月期 業績予想 営業利益増減分析（対 前回予想）

（単位：億円）



- エンジニアリングプラスチックの販売数量が増加するも、自動車減産の影響によりセイフティで販売数量を下方修正
- 原燃料価格の上昇により価格影響はマイナスとなる見込みだが、販売価格是正に取り組む
- 為替レート (USD/JPY) 前提変更 下期：105円 ⇒ 110円（通期：106円 ⇒ 110円）
- コロナ禍による世界的なコンテナ不足や燃料価格上昇により、直接販売費が増加
- 大型投資案件の稼働時期を見直し。対前回予想で減価償却費45億円減少
 - 酢酸原料（一酸化炭素）プラント 21年12月稼働 ⇒ 22年6月稼働
 - 化粧品原料（1,3-BG）プラント 22年1月稼働 ⇒ 22年7月稼働

大型投資案件の状況

◇ 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの状況

- 22年の網干工場定期修繕（5、6月）で切り替え工事を実施し、22年6月より商業運転開始を計画（前回計画は21年12月商業運転開始）
- 世界的に酢酸供給が逼迫しているため、現行設備の稼働を優先して安定供給を果たす

◇ 化粧品原料（1,3-BG）プラントの状況

- 試運転期間中に確認した設備不具合を22年の網干工場定期修繕期間に解消し、7月に商業運転開始を計画（前回計画は22年1月商業運転開始）
- コロナ禍による製品市場環境の悪化や足元の原燃料コストの動向を踏まえて投資額の回収可能性を改めて検証中

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	162	190	190	+28	+17.2%	-	-
スマート	247	280	300	+53	+21.5%	+20	+7.1%
セイフティ	672	735	690	+18	+2.7%	△ 45	△6.1%
マテリアル	1,042	1,085	1,160	+118	+11.3%	+75	+6.9%
エンジニアリング プラスチック	1,686	1,950	2,030	+344	+20.4%	+80	+4.1%
その他事業	127	110	110	△ 17	△13.2%	-	-
合計	3,936	4,350	4,480	+544	+13.8%	+130	+3.0%

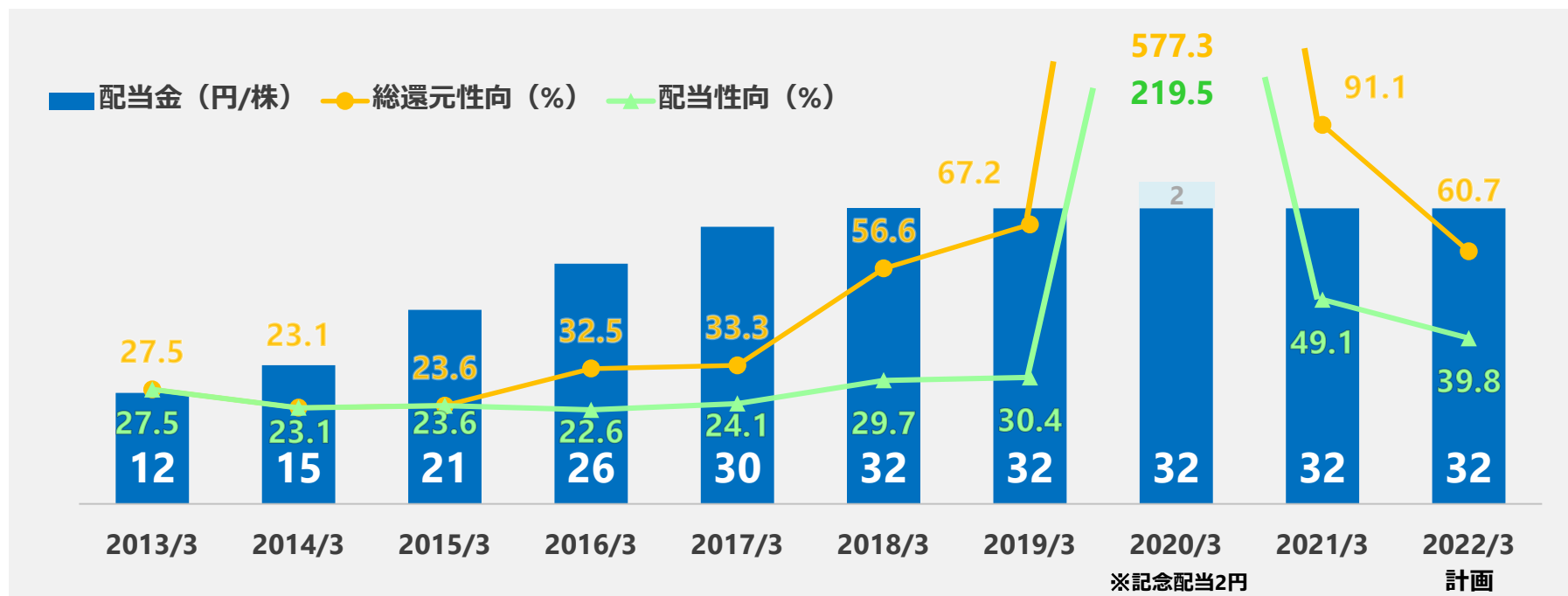
営業利益	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 見直予想	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	16	23	27	+11	+73.0%	+4	+17.4%
スマート	34	42	42	+8	+23.1%	-	-
セイフティ	22	65	50	+28	+124.1%	△ 15	△23.1%
マテリアル	179	140	190	+11	+6.0%	+50	+35.7%
エンジニアリング プラスチック	212	230	215	+3	+1.5%	△ 15	△6.5%
その他事業	15	16	16	+1	+8.0%	-	-
全社共通	△ 161	△ 166	△ 160	+1	+0.4%	+6	+3.6%
合計	317	350	380	+63	+19.8%	+30	+8.6%

株主還元

中期戦略：一株当たり配当金32円を下限に、総還元性向40%以上をターゲットに設定

2022年3月期

- ・ 中間配当 16円/株（予想通り）
年間配当予想 32円/株（前回発表の予想から変更なし）
- ・ 50億円、600万株の自己株式取得を決定（取得期間：2021年11月～2022年3月）



100%子会社化による、収益の拡大

ポリプラスチックス社 LCP、POM樹脂の能力増強

◇ LCP（液晶ポリマー）重合プラントを新設

ポリプラスチックスは、台湾のPolyplastics Taiwan Co., Ltd.に年産5,000トンのLCP重合プラントを新設いたします（2024年上期運転開始予定）。

LCPは近年5G設備向けの投資の増加に伴い需要が増加しており、今後も5G対応の本格化によりLCPの用途拡大が期待されています。将来的には、台湾のプラント拡張により、日本の富士工場（年産15,000トン）と合わせて年産25,000トンの体制といたします。

◇ POM（ポリアセタール樹脂）増産を前倒し

ポリプラスチックスでは、中期戦略で2025年運転開始として計画していたPOMの増産（年産90,000トン）を、1年前倒しした2024年運転開始とし、中国南通市（南地区）に新設する計画変更を進めています。

この計画前倒しは中国の環境政策による、同市（北地区）にある現行プラント（年産60,000トン）の移転要請に伴うもので、代替プラントの建設についても当局との交渉を進めています。

この増設により、中国におけるPOMの生産能力を年産150,000トンとし、成長する中国市場の需要に対応してまいります。

カスタマーインによるサステナブルプロダクトの拡販 木材・綿花由来の自然に還るバイオマスプラスチック セルブレンEC®を積極展開



セルブレンEC® (酢酸セルロース樹脂)

非可食性植物由来で、生分解性を持つバイオマスプラスチック

高い環境特性と加工性を兼ね備える素材

マテリアルリサイクルが可能で、万一リサイクルから外れた場合にも生分解されることで、海洋プラスチックごみ問題の解決に貢献します。

また、トウモロコシ等を原料とするPLA樹脂と異なる、非可食植物(パルプ)由来の素材で、将来の食糧問題に影響を与えません。

成形用途ごとに適した処方開発を行い、従来の汎用プラスチックと同様の成形性を実現しており、バイオマスプラスチックでありながら加工性が高く、顧客の製造設備がそのまま使用可能です。

今後の展望

他のバイオマスプラスチックにない高い透明性を武器にボリュームゾーンの食品分野への採用に注力し、流通業界へのマーケティングを展開中です。

品質要求レベルの高い日本国内で技術の確立、採用実績を作り、生分解性プラスチックへの代替が加速する欧米市場へのグローバル展開も進めていきます。

例えば…



ストロー



カトラリー

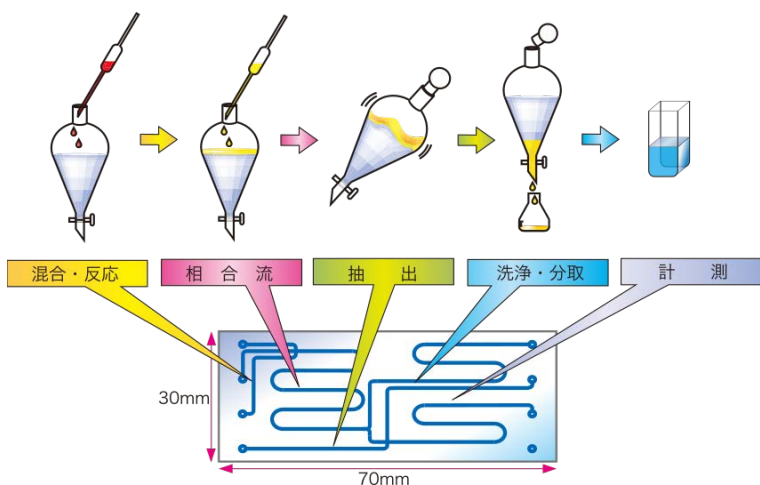
循環型社会の構築・カーボンニュートラル実現に向けて

マイクロ流体デバイスプラントに関する共同研究開発を開始

国立清華大学（台湾）と当社は、「ダイセル・国立清華大学リサーチセンター」を設立し、「マイクロ流体デバイスプラント」に関する共同研究開発を始めました。

これまで当社は生産革新、プロセス革新を通じて省エネルギー化を実現してまいりましたが、循環型社会の構築、カーボンニュートラルの実現に向けてのさらなる取り組みとして、究極の生産効率を追求した「マイクロ流体デバイスプラント」の社会実装の早期実現を目指します。

プレスリリース：https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20211028_2.pdf



画像：マイクロ化学技研株式会社 提供

マイクロ流体デバイス

基板（チップ）上に数百 μm の流路を設け、流路内で混合、反応、精製などの化学操作をマイクロスケールで行うための装置。

並列化



マイクロ流体デバイスプラント
実験装置イメージ

循環型社会の構築・カーボンニュートラル実現に向けて 京都大学とダイセルの包括連携協定締結

京都大学と当社は、木材や農水産廃棄物などのバイオマスを有効活用して再資源化することにより、森、川、海、農山漁村、都市を再生し、自然と共生する低炭素社会の実現、新産業創出などに寄与することを目的とした、包括連携協定を締結しました。

さらに本包括連携協定のもと「新バイオマスプロダクトツリー」実現に向け、同大学生存圏研究所、化学研究所、エネルギー理工学研究所、大学院農学研究科および大学院人間・環境学研究科と包括的研究連携協定を締結し、産学連携共同研究の拠点「バイオマスプロダクトツリー産学共同研究部門」を同大学宇治キャンパス内に設置しました。



参考資料

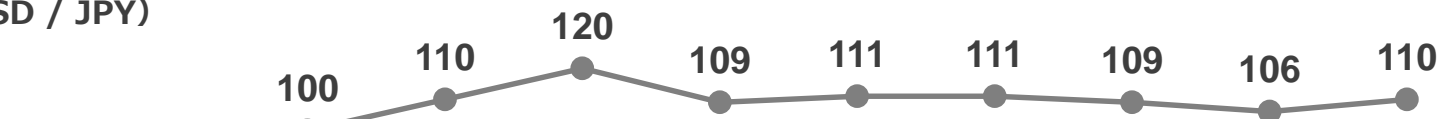
売上高・営業利益の推移・予想

(単位：億円)

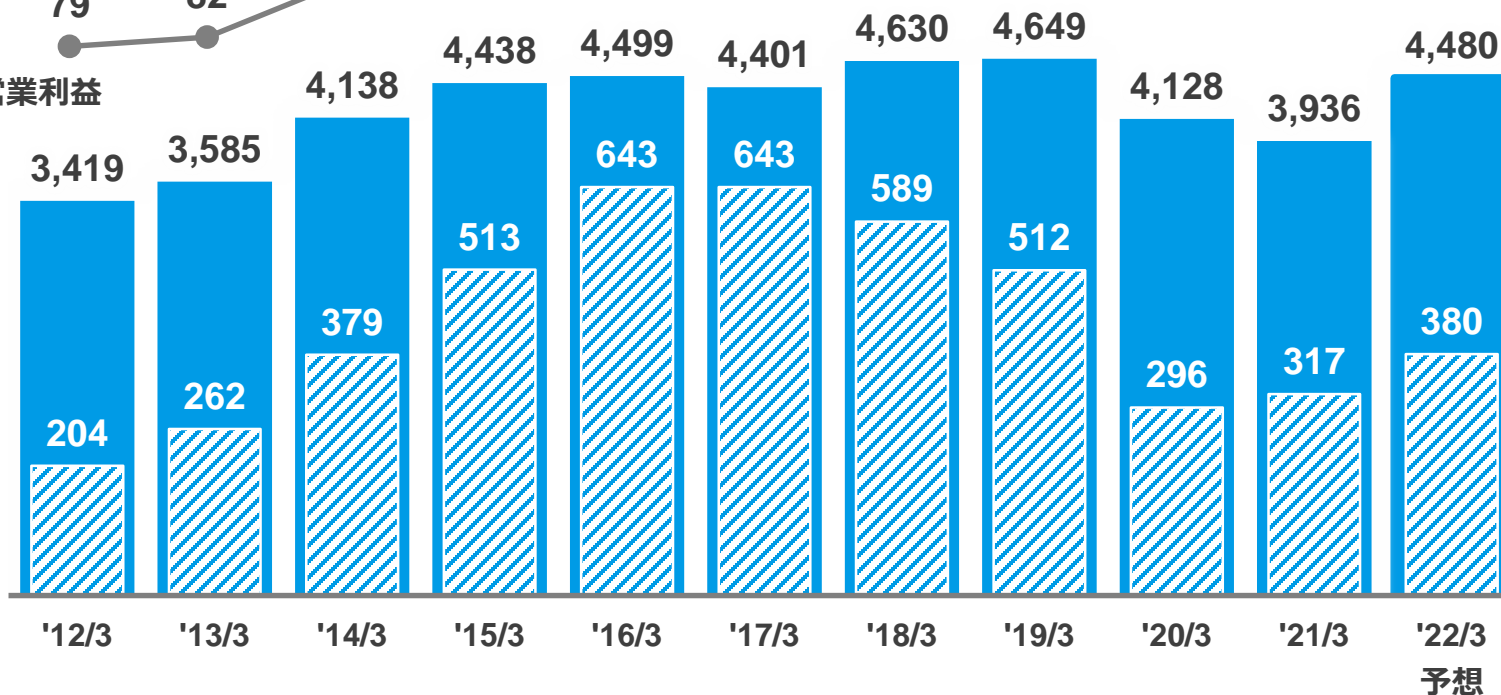
● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



● 為替レート (USD / JPY)



■ 売上高 / 営業利益



セグメント別情報（当第2四半期（7月～9月）の状況）

＜前回予想との変化点＞

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料の1,3-BGは、中国市場で販売数量が計画より増加 キラル分離事業は、海外でのカラム・充填剤の拡販により販売が計画より増加
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースの販売数量はほぼ計画並み。機能フィルムの販売は車載ディスプレイ用途が自動車減産の影響を受け、計画より減少 電子材料溶剤、レジスト材料はフル製造を継続。電子材料溶剤は、原料価格上昇に伴う価格是正の推進により売上が計画より増加。レジスト材料は、既存製品の販売増に加え新規製品が拡大したことにより販売数量が計画より増加
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足、新型コロナウイルスによる自動車生産台数減少の影響を受け、インフレータの販売数量は計画より減少
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸市況の上昇により酢酸ならびに酢酸誘導体の販売価格も想定より上昇 アセテート・トウは、アジア地域を中心とした需要回復と客先の在庫確保により販売数量が計画より増加 カプロラクトン誘導体やエポキシ化合物などは、販売数量の増加、販売価格の是正により、売上は計画より増加
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によるマレーシア工場の操業影響などにより販売数量は計画より減少。なお自動車減産のエンプラ販売数量への影響は限定的 原料価格上昇に伴う販売価格の是正、為替の影響により売上は計画より増加

セグメント別情報（下期（10月～3月）の見通し）

＜前回予想との変化点＞

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 1,3-BG網干工場新プラントの商業運転開始を22年7月に見直し（前回予想では22年1月稼働を計画） キラルカラム、充填剤は中国を中心とする海外市場の需要増加により、計画を上回る売上を見込む
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 下期に市場調整を想定するが、液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースの販売数量は計画以上の水準で推移する見通し。機能フィルムはテレビディスプレイ表面向けの新規採用や海外新規ユーザー獲得などにより計画を上回る見通し 電子材料溶剤、レジスト材料は上期に引き続きフル製造を継続する。電子材料溶剤は拡販と価格是正の実施により売上は計画を上回る見通し センシング事業では、半導体供給不足により一部新規案件が先送りになるなど、販売計画は未達となる見通し。一方でAR/VR用途レンズなど新規の引き合いが増えており、新たな案件を積極的に開拓していく
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数減少の影響を受け、インフレータの販売数量は計画より減少する見通し 操業減に合わせた直接労務費、経費削減などコストダウンを積み増し

セグメント別情報（下期（10月～3月）の見通し）

＜前回予想との変化点＞

マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 中国環境規制に伴う酢酸市況の上昇を受け、計画の前提となる市況価格を見直し 酢酸の安定供給を最優先に酢酸原料（一酸化炭素）プラント商業運転開始時期を22年6月に見直し（前回予想では21年12月稼働を計画） 化学品は原燃料価格上昇により製造原価が上昇するも、積極的な価格是正を推進 アセテート・トウの主要顧客との2022年年間契約価格は計画通り前年並みを想定するが、直接販売費増加が利益を押し下げる見通し
エンジニアリング プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> POM、PBT、PPS、LCPはフル製造を継続するも、在庫はタイトな状況が継続し、LCPを除き販売数量は計画よりも減少する見通し COCはコロナ禍の影響により大型開発案件が先送りになったことで計画を下回る見通し 原料価格が計画を上回るが、価格是正を強力に推進 上期に引き続き、輸送費の上昇や、原料不足などによる生産遅れ対応のための一時的な特別輸送実施により直接販売費が計画を上回る見込み

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

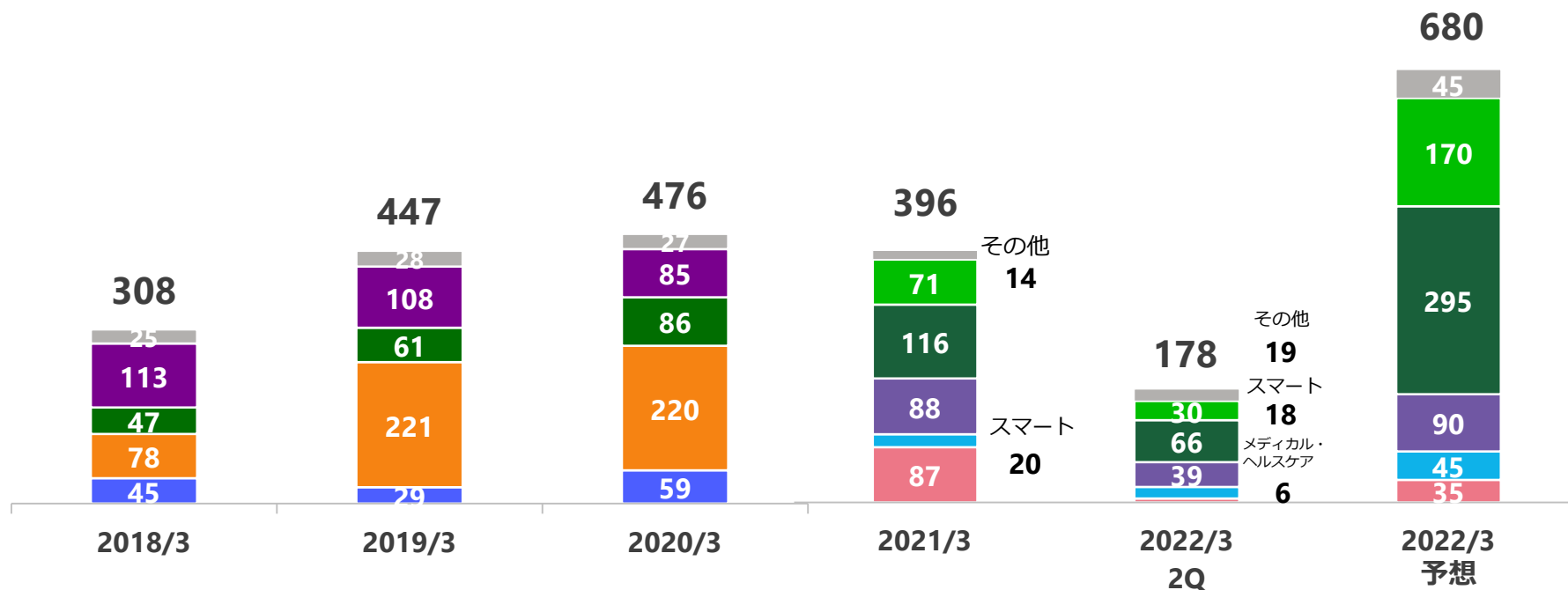
売上高	2021/3				2022/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	39	39	42	42	48	48
スマート	51	52	73	71	80	75
セイフティ	107	165	195	205	163	156
マテリアル	256	237	256	293	283	298
エンジニアリングプラスチック	352	395	465	474	515	529
その他事業	24	37	30	36	26	28
合 計	829	924	1,060	1,122	1,114	1,135

営業利益	2021/3				2022/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	4	4	4	3	9	10
スマート	6	4	10	13	20	14
セイフティ	△ 23	6	22	17	7	17
マテリアル	39	36	34	71	60	56
エンジニアリングプラスチック	39	43	58	71	82	69
その他事業	4	5	4	2	5	2
全社共通	△ 38	△ 39	△ 36	△ 47	△ 44	△ 36
合 計	31	60	96	130	139	133

設備投資額

(単位：億円)

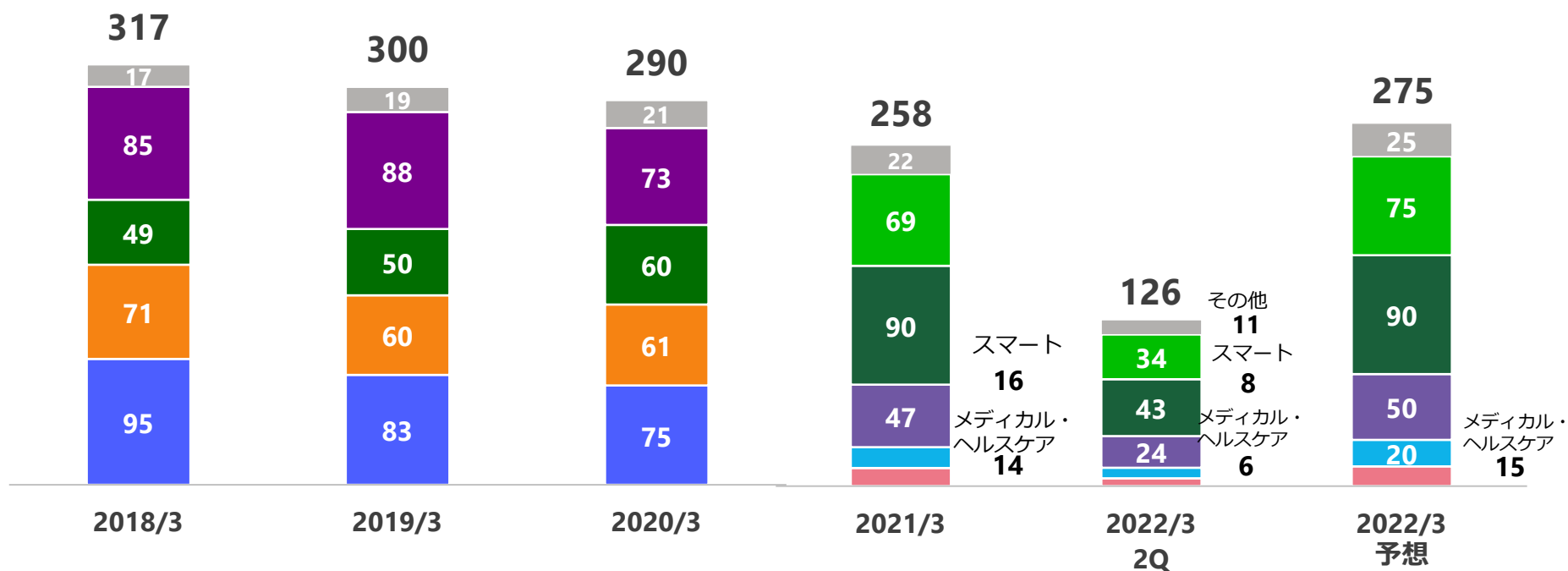
- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通




減価償却費

(単位：億円)

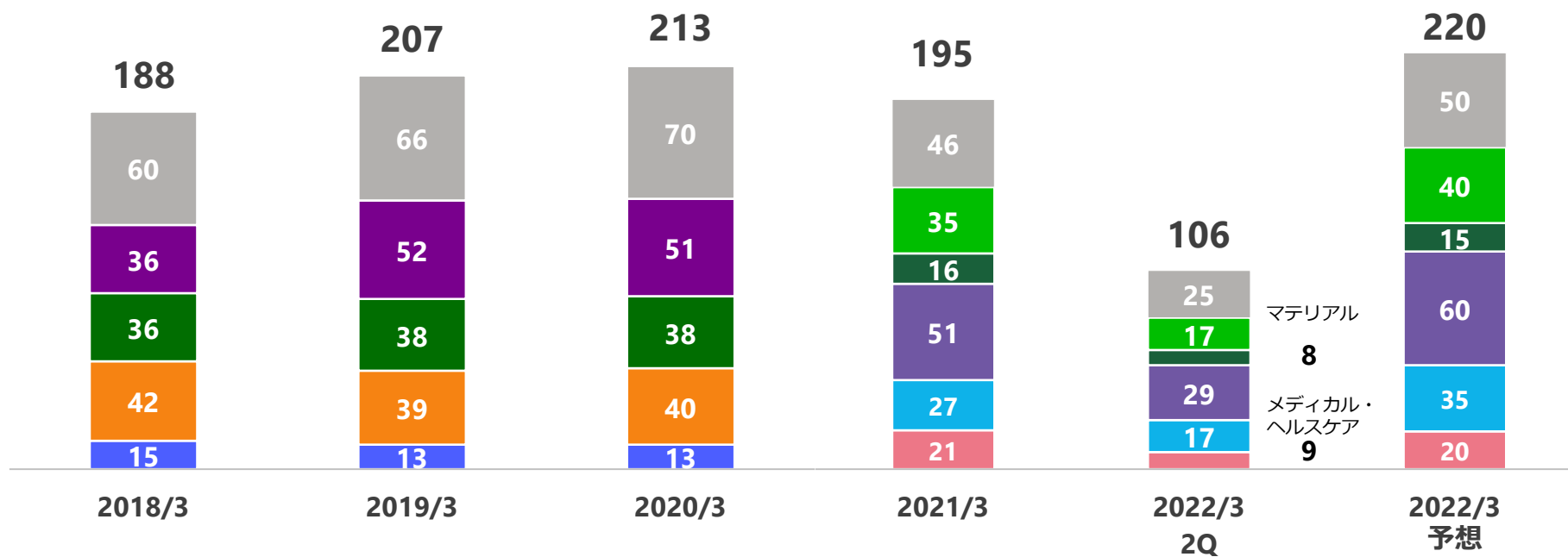
- | | | | |
|--------------|--------|------------------|--------------|
| ■ セルロース | ■ 有機合成 | ■ メディカル・ヘルスケア | ■ スマート |
| ■ 合成樹脂 | ■ 火工品 | ■ セイフティ | ■ マテリアル |
| ■ その他事業・全社共通 | | ■ エンジニアリングプラスチック | ■ その他事業・全社共通 |




研究開発費

(単位：億円)

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通



2022年3月期通期業績予想

(単位：億円)

		2022/3 前回予想 (※)			2022/3 見直予想			増減
		上期予想	下期予想	年間	上期実績	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	95	95	190	96	94	190	-
	スマート	155	125	280	154	146	300	+20
	セイフティ	350	385	735	319	371	690	△ 45
	マテリアル	555	530	1,085	580	580	1,160	+75
	エンジニアリングプラスチック	1,010	940	1,950	1,044	986	2,030	+80
	その他事業	55	55	110	54	56	110	-
売上高		2,220	2,130	4,350	2,248	2,232	4,480	+130
	メディカル・ヘルスケア	16	7	23	19	8	27	+4
	スマート	35	7	42	34	8	42	-
	セイフティ	30	35	65	24	26	50	△ 15
	マテリアル	105	35	140	116	74	190	+50
	エンジニアリングプラスチック	125	105	230	151	64	215	△ 15
	その他事業	8	8	16	8	8	16	-
	全社共通	△ 89	△ 77	△ 166	△ 79	△ 81	△ 160	+6
営業利益		230	120	350	273	107	380	+30
経常利益		240	130	370	298	122	420	+50
親会社株主に帰属する当期純利益		160	80	240	220	20	240	-
(参考) 為替レート USD/JPY		107	105	106	110	110	110	

※ 2021年8月3日に公表した業績予想です。

為替レート・主要原燃料価格

		2021/3 実績		2022/3 実績+前回計画			2022/3 実績+見直計画	
		上期実績	下期実績	1Q実績	2Q計画	下期計画	上期実績	下期計画
為替レート (USD/JPY)		107	105	110	105	105	110	110
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	192	316	357	340	340	377	500
	原油 ドバイ (USD/bbl)	37	53	67	70	70	70	85
	国産ナフサ (円/kl)	27,500	34,500	48,000	48,000	48,000	50,350	60,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。